



「ふくい」企業の挑戦

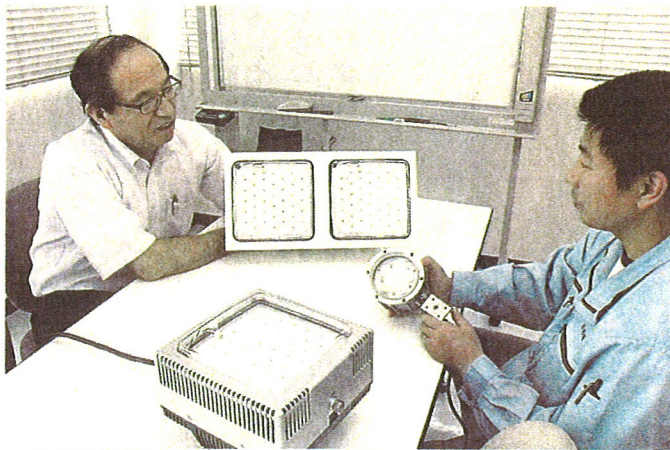
自社駐車場に2灯のLED(発光ダイオード)照明器具が24時間点灯し、寿命の調査をする。水銀灯などに比べ寿命が長くて、計算値では4万時間交換不要だ。4万時間は約4年半で、仮に1日8時間使用なら、14年程度はもつ計算になる。岡田正一郎社長は「まだ取り付けて2年8カ月だが、何ら故障もない」という。PRと実証試験を兼ねる。本年度から生産を本格化させたLED照明器具「Alight(あらいと)」シリーズ。最新のGLEBOは400ワットの水銀灯とほぼ同じ明るさで、消費電力は65%抑える。価格は3%

日野電子(坂井市)

4倍するが「長く使ってもらえば電気代を含めたコストは回収できる」と強調する。スイッチのON、OFFを繰り返しても寿命は縮まない。

国内大手機械メーカーの工場に既に設置され、さらに追加オーダーもきている。「他社製品と比較の上で採用してもらった」と自信をのぞかせる。ただ「中小企業だからブランド力がないので競争には弱い。そのためにも今は実績を積みしかない」と地道に販路開拓を進

工場、体育館へ販路拡大



日野電子が開発した3種類のLED照明器具。四角いライトが2つセットした照明具(奥)は工場や体育館などへの設置を働き掛ける＝坂井市の同社

める。昨年夏、東京・お台受け、一緒に研究を始めた日野電子が製造を一手に引場に登場した巨大ロボットのが取り組みのきっかけと目部分にも採用された。LEDは水銀灯に電子機器の設計、製造が比べ光を広げて照らすのがメイン。2005年、県外難しい。また、いかに熱を企業からLED照明器具内逃がすかに頭を悩ませた。部の電源基盤の製造依頼を共同で研究を進めるうちに

「海外からの進出がものすくすく著しいこと」。昨年は「LED元年」ともいわれ、展示会などに出品してける数が急速に増えたという。「特に台湾や中国などは国を挙げてLEDを推奨している。品質的にはや問題もあるが、価格は安い」という。量産では太刀打ちできないので、特殊なニーズをくみ取り生き残っていくしかないとみる。

他社より優位に立つのは、LEDに取り組んできた歴史がやや長く、電子機器の設計などで培ってきたノウハウ、検査装置製造などの技術があることだという。「総合力でやっていく。顧客の声を聞きカスタマイズしていく」。ガソリスタンドや体育館、工場、倉庫での採用を強く訴えていく考えだ。

LED照明具に参入